

# ひと・ネットワーク 178

## 心の底からスポーツを楽しむに

神奈川県障害者スポーツ指導者協議会  
神奈川県障害者スポーツ振興協議会  
会長 内野慎吾



設立10年目を迎える私ども障害者スポーツ指導者協議会の登録者は、三月末現在、600名です。しかし、実際に活動しているスポーツリーダーは200名弱。このような状況をふまえて、平成19年度は、地域における障害者スポーツの普及並びにスポーツリーダーの活動を活発化させることを最優先に掲げ、地域に根ざし、障害者の人々に心の底からスポーツを楽しんでもらえるようにしたいと考えております。

ちなみに、当協会の秦野支部では、今年度のスポーツ教室の日程が決まり、フライングディスク、ユニカール、ダーツ、ペタンク、卓球等、どなたでも気軽に参加できる軽いスポーツプログラムで開催することになっています。

一方、障害者スポーツ事業につきましては、平成19年4月より障害者（身体・知的・精神）のスポーツ事業が一元化されました。このことに伴い、名称が神奈川県障害者スポーツ振興協議会に変わり、その役割を神奈川県障害者社会参加推進センターが担うことになりました。

障害者のスポーツ、レクリエーション活動を通して、心身の健康増進と社会参加の促進という目的を達成するために、障害者スポーツに関する普及・啓発・神奈川県ゆうあいピック大会に関する事業等に鋭意取り組んでいるところです。

がうかがえます。

平成十六年に設立総会を開いた町内福祉村ですが、そのはるか以前に、村の中身はできていたのです。

### □大神地区町内福祉村

今年二月、設立総会を開いた大神地区町内福祉村は、三月に拠点「大神よりきの郷」を開所しました。

様々な地域団体や住民との意思疎通を大切にすため、村の設置の検討には一年半をかけています。随時訪れる市担当職員の情報提供も活用しました。結果として、非常に行き届いた組織ができました。

大神地区町内福祉村の特徴のひとつに、メンバーの半数が男性である



手作りの看板に迎えられます。



秋には近所の小学生と植えたサツマイモでイモ掘りが予定されています。

ことがあります。退職後の地域デビューを鋭意、働きかけてきた成果です。呼びかけに応え、活動が続く要因として、「自分の意見が生かされる喜び、やりがいを実感できるからではないでしょうか。」と茂田孝代表は考えています。

農園団の活動など、創意工夫にあふれた活動の今後が楽しみです。

### 地域に支えられ、地域を支える 救護施設・平塚ふじみ園

住民の福祉活動は、実は施策から離れたところで静かに広がっています。生活保護法で措置がなされる救護施設の平塚ふじみ園には、日々、「平塚ふじみ園福祉友の会」(会員数…三百九十名)というボランティアグループのメンバーが来訪します。

馬鳥功会長は、「和やかに入って

きやすい場所なんです。職員の方達が利用者になんて一所懸命に接している姿を近隣の者は皆知っています。」と、地区の一員として関わりを持つという気持ちになると話します。職員が利用者の生活援助に集中できるように、住民が自分たちにできることを手伝おうと始まったボランティアの内容は、サークル活動、園庭の手入れ、祭などのイベントの準備と、多様です。

園が自治会の十九組に位置づけられたことも自然のなりゆきでした。

平塚市には、住民が地域の中でつながり、お互いあたりまえに助け合う文化のあることがうかがえます。